

日赤会誌 フレッシュヤーズ研修会開催報告

日本赤十字社診療放射線技師会 フレッシュヤーズ研修会

日時：令和7年1月11日（土）

会場：日本赤十字社 201 会議室

全国の日赤病院から1年目から5年目の若手診療放射線技師が集い、フレッシュヤーズ研修会が開催された。今回の開催はコロナ禍以来、数年ぶりの開催とのことであったが、全国から60名を超える放射線技師が集まり、講演やグループワークを通じた交流が行われた。

初めの講演では本社医療事業推進本部財務管理部長 西澤忠彦様から、日本赤十字社の赤十字病院の取り組みについて語られた。日赤グループの概要や財務に関する施策等が語られ、改めて日赤グループがいかに大きい組織であるのかを実感する者が多くいたのではないだろうか。

つづくランチョンセミナーでは島津製作所による最新一般撮影装置の紹介と、三菱神戸病院健康管理センター 高井夏樹先生による講演が催された。同施設の仲間や、席が近くの者と会話を楽しみながら、講演に耳を傾ける様子がうかがえた。昨今のコロナ禍で、ランチョンセミナーに参加する機会はそう多くなく、若手技師の中にも今回が初めてという者も多くいたことだろう。高井氏による講演では、上肢の一般撮影に関する撮影技術について語られた。上肢の一般撮影は撮影機会が多く、また関節の動きも大きいため、若手技師にとって課題の一つであろう。高井氏の上肢に関する知識は、自身の経験や研究に基づいたものであり、聞いていて非常にわかりやすく、また興味深い内容であり、若手技師にとってとても良い刺激になったのではないだろうか。

グループワークでは、グループメンバーを入れ替えながら、用意されたテーマに沿って交流が行われた。簡単な自己紹介を交えつつ、理想の技師像について語り合ったり、普段の業務における取り組みなどについて検討したりした。他院の取り組みを耳にする機会はなかなかないため、各々、気になった取り組み等を自施設に持ち帰り、普段の業務に生かす動きもあったことだろう。

研修会を締めくくる最後の教育講演は、「今後の赤十字の技師の発展のために」と題して、藤田医療大学教授 高津安男先生から語られた。臨床で経験してきたことや、これまで行ってきた研究の紹介などがなされた。そこから得た結論として、普段の業務における「疑問」と、それを解決するための「工夫」の過程が研究となり、今後の技師の発展につながるのだという。今後の現場を担う若手技師にとって、この考えは非常に重要なものだろう。

フレッシュヤーズ研修会は若手技師にとって、他施設の技師との交流の場としてだけでなく、自身の今後の働き方に大きな影響を与える機会となっただろう。今後も引き続き開催され多くの若手技師が参加し、日赤の診療放射線技師会が発展していく事を願う。

石巻赤十字病院 放射線技術課 小岩知樹



参加者に撮影してもらった写真



日赤本社